

**【京都府京都市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	京都府京都市
担当課名	教育委員会体育健康教育室
電話番号	075-708-5322

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	1,443,486人	部活動数	812部活
公立中学校数	72校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	27,046人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・令和5年度は、民間事業者、大学、プロチームの連携を進め、実践研究を行う部活を16校28部に拡大【①民間事業者7校9部②大学連携9校18部③プロチーム1校1部】（1校重複）

・本事業の目指すべき将来像及び今後の方針等、具体的な取組を関係者が一体となって検討するため有識者・関係団体等で構成する協議会「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方検討会議」を設置し、令和6年1月に第1回会議を開催。

・令和5年に教職員及び生徒を対象とした部活動に関する意識等を確認するアンケート調査を実施。主な結果は以下のとおり。

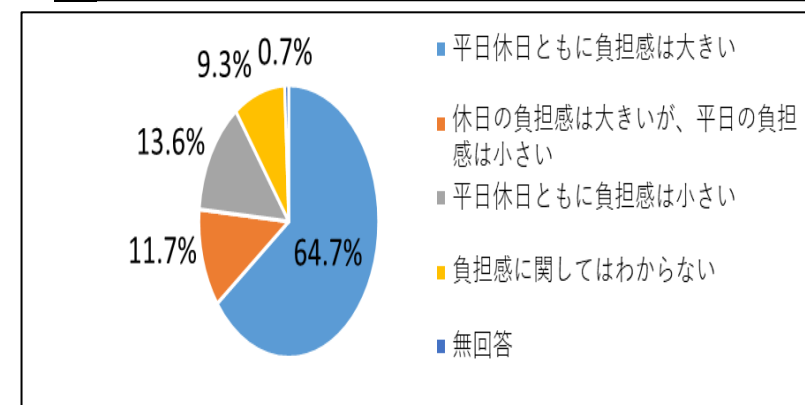
【教員向け調査】

- 76.4%の教員が休日の部活動に負担を感じており、平日休日ともに負担を感じているのは64.7%
- 26.7%の教員が地域移行後、指導に関わりたいと希望。

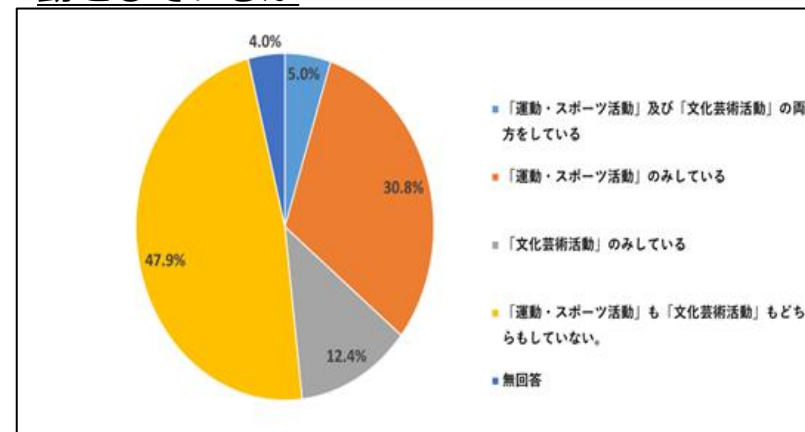
【生徒向け調査】

- 48.2%が休日に学校部活動以外のスポーツ・文化活動を行っている。
- 24.8%が地域移行後、休日に地域クラブで活動したいと考えている。

◆部活動の活動日に関する負担について



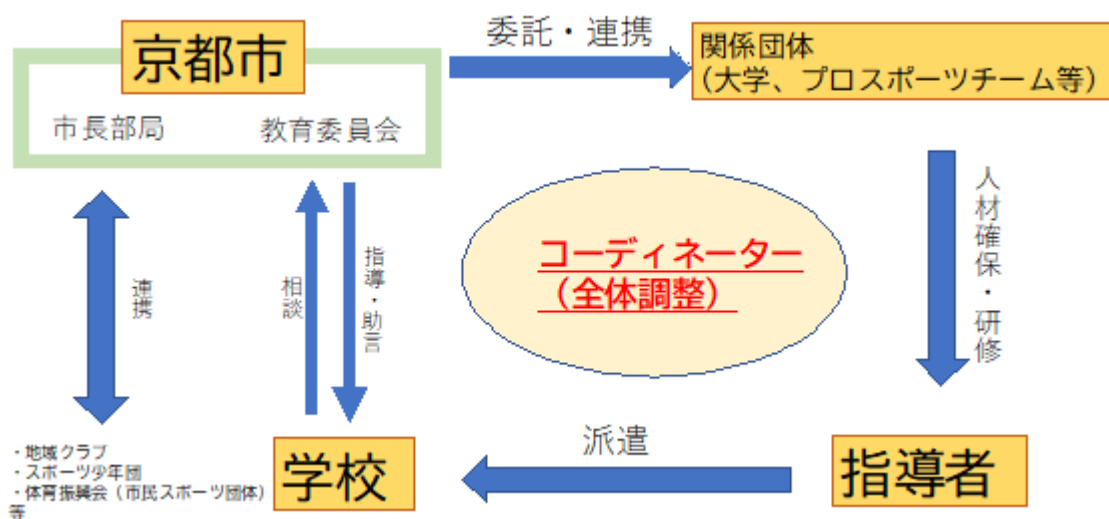
◆休日に学校部活動以外にスポーツ・文化芸術活動をしているか



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図） ※イメージ図



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（体育健康教育室）
 - 学校との連絡調整
 - 委託契約事務
-
- **市長部局**（市民スポーツ振興室 他）
 - 各局が所管する関係団体（地域クラブ、スポーツ少年団、体育振興会等）との連絡調整

年間の事業スケジュール

- ・令和5年7月～令和6年2月 民間事業者への委託 7校9部活動（委託期間中に順次実施）
- ・令和5年8月～令和6年2月 大阪成蹊大学等との連携 9校18部活動
- ・令和5年12月～令和6年3月 Tリーグのプロスポーツチーム「京都カグラライズ」との連携 1校1部活動

2. 実証内容と成果（大学連携）

活動の運営実績

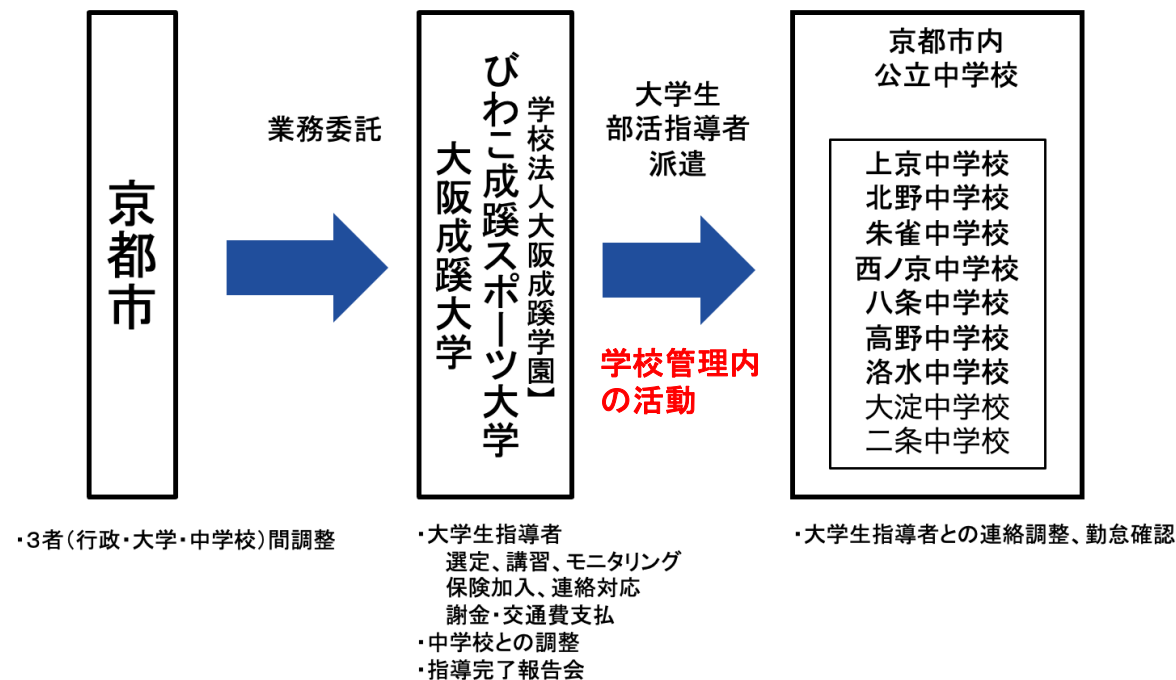
拠点校数	9 校	取り組んだ種目	サッカー、陸上、軟式野球、ソフトテニス、卓球、水泳、バレーボール、バスケットボール
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	18 部活		

主な取組例

▼活動概要

活動拠点	京都市内9 中学校
対象部活動数	計18部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、陸上、軟式野球、ソフトテニス、卓球、水泳、バレーボール、バスケットボール
運営主体名	びわこ成蹊スポーツ大学・大阪成蹊大学
運営類型	地域団体・人材活用型
1 か月あたりの平均的な活動回数	月2-4回程度
指導者の主な属性	大学生23名（びわこ成蹊スポーツ大学所属） 1年生3名・2年生8名・3年生5名・4年生7名
活動場所	活動拠点中学校内施設（体育館・グラウンド等）
1 人あたりの参加会費等（年額）	徴収なし
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 学生指導者 1 人あたり：1,850円/年 （生徒：学校管理下活動のため既存保険で対応）

▼運営体制図



各校の競技
学生指導者数（括弧内数字）

■上京中学校：陸上（1）・卓球（1） ■二条中学校：水泳（1） ■北野中学校：サッカー（1）・ソフトテニス（1）・陸上（1）
 ■朱雀中学校：サッカー（1） ■西ノ京中学校：ソフトテニス（1）・陸上（1）・卓球（1） ■高野中学校：バスケットボール（2）
 ■八条中学校：ソフトテニス（1）・陸上（2）・軟式野球（2） ■洛水中学校：バスケットボール（2）・卓球（1）
 ■大淀中学校：ソフトテニス（1）・バレーボール（2）

2. 実証内容と成果（民間事業者）

活動の運営実績

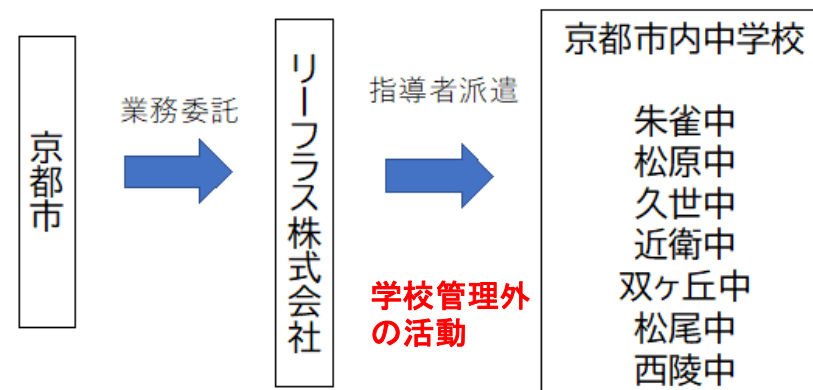
拠点校数	7 校	取り組んだ種目	卓球、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール、バドミントン
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	9 部活		

主な取組例

▼活動概要

活動拠点	京都市内 7 中学校
対象部活動数	計 9 部活
地域クラブ活動で実施した種目	卓球、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール、バドミントン
運営主体名	リーフラス株式会社
運営類型	地域団体・人材活用型
1 か月あたりの平均的な活動回数	月4回程度
指導者の主な属性	元教員、大学生、スポーツ協会理事長等
活動場所	活拠点中学校内施設（体育館・グラウンド等）
1 人あたりの参加会費等（年額）	徴収なし
1 人あたりの保険料	傷害保険約100円／年 賠償責任保険数円／年

▼運営体制図



各校の競技
学生指導者数（括弧内数字）

- 松原中 男子バスケットボール（4）、卓球（4）
- 近衛中 男子バスケットボール（4）、女子ソフトテニス（5）
- 朱雀中 卓球（4）
- 双ヶ丘中 バレー（4）
- 久世中 男子バスケットボール（4）
- 松尾中 バドミントン（4）
- 西陵中 バドミントン（4）

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・今年度より教育委員会に本事業に関するコーディネーターを配置し、学校や関係団体との連絡調整の役割を担った。
- ・コーディネーターが適宜、受託事業者や学校と連絡調整を行うとともに、学校訪問や視察を行う等、丁寧な指導助言の体制を構築した。

取組の成果

今年度、民間事業者へ委託した実証事業の終了後、生徒・顧問・保護者にアンケート調査を実施。主な回答は以下のとおり。（）は回答率
【生徒】（85.8%）
休日指導者として顧問の先生以外が指導することを希望するか→72.4%がとてもそう思う
【顧問】（62.5%）
本事業によって負担は軽減されたか→90%がとてもそう思う・そう思う
【保護者】（67.6%）
子どものスポーツ等活動環境の充実等を目指した、休日部活動の地域移行についてどう思うか→61%が積極的に進めるべき
以上の結果から、一定の評価は得られた。引き続き、本事業の制度周知や、子どもにとってよりよい活動環境充実に努める。

特に工夫した事項

- ・学校管理外で活動を行う場合、保護者向け説明会を実施し、丁寧に運営に関する説明を行った。
- ・スポーツ協会と連携してバスケットボール協会の指導者を紹介いただいた。
- ・松原中卓球部・朱雀中卓球部は近接した学校であり、学校や受託事業者等と調整し、合同で活動することもあった。

今後の課題と対応方針

* 受益者負担については、引き続き、検討。今年度実施した保護者アンケートでは1ヵ月あたりの徴収金額は～1000円が妥当という回答が最も多かったが、活動の継続性の観点からより多くの財源が必要になるため、制度の周知や保護者理解を継続して浸透させていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・委託先団体における指導者の募集・確保
- ・委託先団体において、運動部活動の指導者としての基礎的知識及び生徒への指導のためのノウハウの習得を目的とした研修の実施

取組の成果

- ・実施した28部活動において、必要な指導者をすみやかに確保することができた。
- ・保護者及び生徒からも好評であり、指導者の質も一定確保できている。
具体的には、生徒から「難しい技術も分かりやすく教えてもらえる」「外部指導者のおかげで上達し、試合に勝てるようになった」という声を聞くなど好評を得た。また、保護者から「外部の指導者に安心して子どもの部活動指導を任せることができた」との声をいただいた。

特に工夫した事項

- ・保護者理解や指導の一貫性を保つため、部活動指導員として活動していた指導者を、受託事業者の指導者として活用したり、昨年度指導した指導者が、同一部活動で指導したりするなど、年度をまたいでも切れ目なく取組を進めることができた。

今後の課題と対応方針

- ・大学生の指導者については、卒業し就職等があった場合、長期的な指導者として活動することができないため、持続的に指導者を確保していく仕組みづくりが必要。
- ・大学が関係する総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・民間事業者と引き続き、継続して連携し、実施部活動数を拡大。
- ・大阪成蹊大学・びわこ成蹊スポーツ大学と昨年度から引き続き、継続して連携し、大学生を中学校部活動の指導者として派遣。
- ・卓球のプロスポーツチーム（京都カグヤライズ）と連携し、指導者を派遣。

取組の成果

- ・関係団体と連携を深め、実証事業実施部活動数を拡大（令和4年度17部活動⇒令和5年度28部活動）。
- ・大阪成蹊学園との連携では、将来スポーツ指導者を目指す学生や教員志望の学生を中学校部活動指導者として派遣することで、大学生・生徒・顧問・保護者等の関係者にとって充実した取組となった。
- ・今年度はじめてプロスポーツチームから競技経験のある指導者を派遣することで、質の高い活動を行った。

特に工夫した事項

- ・市長部局と教育委員会が密に連携し、情報を共有することで関係団体との関係づくり・連携強化が進んだ。
- ・コーディネーターが適宜、受託事業者や学校と連絡調整を行うことで、円滑に取組を実施することができ、実証事業実施部活動数を拡大することができた。

今後の課題と対応方針

- ・民間事業者への委託や大学プロスポーツチームとの連携を拡充しながら、新たに総合型地域スポーツクラブや競技団体等、幅広い団体と連携を進める。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）

大阪成蹊大学等との連携

- ・実施校数 9校18部活動
- ・実施期間 令和5年8月～令和6年2月
- ・取組内容 大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学と連携し、専門的指導ができる学生を顧問の補助として派遣

Tリーグのプロスポーツチーム「京都カグヤライズ」との連携

- ・実施校数 1校1部活動（西院中 卓球部）
- ・実施期間 令和5年12月～令和6年3月
- ・取組内容 卓球指導者を顧問の補助として派遣。時折、プロ選手も派遣。



西院中（卓球、カグヤライズと連携）



開晴小中（バスケ、大阪成蹊大等と連携、R4の様子）

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	令和5年度	令和6年度（予定）
学校部活動及び地域クラブ活動在り方検討会議	・ 会議立ち上げ（R6. 1）	・ 「検討会議」実施（4回程度開催予定） ・ 「推進方針」策定（R6年度中を予定）
休日の地域移行の取組 地域の多様な主体が実施する地域クラブ活動によって部活動を代替	28 部 ・ 民間事業者への委託 9 部 （休日の部活動の地域移行に関する管理運営業務委託） ・ 大阪成蹊大学等との連携 18 部 （大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学と連携し、専門的指導ができる学生を顧問の補助として派遣） ・ Tリーグのプロスポーツチーム「京都カグヤライズ」との連携 1 部 （卓球指導者を顧問の補助として派遣。時折、プロ選手も派遣）	60 部程度 ・ 左記に加え、総合型地域スポーツクラブ、競技団体等、幅広い団体と連携を進める。
地域連携の取組 部活動指導員等の地域人材を活用することで、学校で運営しつつ、生徒の活動機会を確保	部活動指導員配置 191 名（令和5年12月末時点）	260 名程度

※ 部活動指導員の配置・人数（予算枠）は高校を含む。